

◎膀胱臍韌帶囊腫ノ一實驗

醫學士 山田 謙治

膀胱臍韌帶ノ囊腫ハ稀有ノ者ニシテ千八百六十二年ニ
ルシユカ Insolia 氏ハ其説明ヲ下シ「ウラクス」ノ變質ヨ
リ起ル者トシ其後ホフマン及ウオルフ Hoffmann, Wolf
等ノ諸氏之レカ實驗ヲ報告シタルモ其數ハ尙ホ成書ニ
上ホルモノ鮮シ子カ金澤病院ニ於テ見タル患者ハ石川
郡柴木村ノ一農婦ニシテ年齢四十六歳ナリ他病ノ爲地
方醫師ノ診察ヲ受ケ同醫師ノ注意ニ由テ初メテ自ラ腹
部ニ腫物アルヲ知レリト云フ而ノ此腫物ヲ發見セシ

ハ昨年五月頃ニノ子カ初メテ診セシハ本年六月十五日
ナリキ

患者ハ軀格強大、中肉ニシテ十六歳ノ時初メテ月花ヲ
見己ニ八回分娩セリ二十日來胃部ニ微痛壓重ヲ感シ少
シク便秘スレモ下腹部ニハ異常ヲ訴ヘス腹部ヲ接スレ
ハ臍下ニ小兒頭大ノ腫物アリテ打診スレハ濁音ヲ呈シ
著シク脈動ヲ觸ル臍内指診ヲ試ムレハ子宮ハ後屈シ子
宮底ハ後壁ニ緊接シ爲メニ後穹隆部ヲ觸レス前穹隆部
ヲ強ク壓上シ腹部ヲ指頭ニテ打テハ其波動ヲ觸知シ得
ヘシ然レモ其波動ノ傳達ハ至テ輕微ニシテ著明ナラス
試ミニ膀胱内ニ水ヲ注入シ之レヲ填充スルモノ之レヲ流
出セシメテ空虚トナスモ腫瘍ノ大小抗抵ニ於テハ毫モ
變化ヲ及ホスコトナシ故ニ其膀胱ト連續セサルヲ知ル
ヘシ今此腫瘍ヲ按スルニ稍ヤ疑ハシキ所ノ者ハ卵巢囊
腫、喇叭管水腫、韌帶囊腫、纖維囊腫、子宮水腫、血腫、膀

膀胱狀擴張等ナリ、圓韌帶、廣韌帶内ノ囊腫ハ多クハ巨
 organische Hybride ニシテ太クモ豆大ナ超ヘス且ツ側
 方ニ位セリコルプ及トーマス Job, Thomas ノ實驗ニ由
 ルニ喇叭管囊腫ハ小兒頭大ニ達スルヲアレハ多クハ圓
 筒形ニシテ且側方ニアリ卵巢囊腫ニアリテモ時ニ或ハ
 骨盤上部ニアリテ中央ニ存シ波動ヲ呈スルヲアレハ莖
 ナ以テ連續スル故ニ之レヲ動カセハ必ス多少子宮ニ其
 運動ヲ及ホスヘシ子宮血腫、氷腫ハ中央ニ位シ球形ニ
 シテ往々頭大ニ達スルヲアレハ此婦人ニハ既ニ八回分
 娩セシノミナラス今尙障害ナク且子宮ハ腫瘍ノ後方ニ
 アリ子宮纖維腫ノ粘液變質、囊腫形成、其他子宮壁ノ囊
 腫モテマルガンク、デアン、ワグチル、キウイシ Denurga
 ng. Dean, Wagner, Kiwisch 等ノ諸氏實驗セシヲアリ時ニ
 或ハ巨大ノ腫瘍ヲ形成スルヲオキニアラサレハ多クハ
 子宮實質ノ肥大則チ子宮ノ新生物ニ併發スルモノナリ

若シ然ラサルモ子宮ト共ニ運動セサルヘカラサレハ此
 腫瘍ニアリテハ全ク子宮ト連接スルヲナシ膀胱ヲ囊狀
 擴張ニシテ膀胱トノ間ニ中隔アリテ連續十分ナラサル
 キハ多少ノ尿管内ニ蓄積スルヲアレハ全ク閉鎖シテ小
 尿管タモ有セサルヲナシ從テ囊ハ充分ニ緊張スルヲナ
 シ然レハ此患者ニ於テハ腫瘍ノ緊張ハ高度ニ達シ膀胱
 内尿ノ多少ニ關スルヲナク且又其位置ト腹部前壁中央
 ニアリテ毫モ子宮ハ連續スルヲナシ故ニ此囊腫ハルシ
 カ Luschnka 氏ノ所謂前腹膜囊腫 Praeperitonealcyste 則チ
 膀胱膈韌帶囊腫 Urachusyste ト診斷セリ
 然レハ或ハ腹壁若クハ骨盤壁ノ「エヒノコックス」囊腫ナ
 ルヤモ計ラレサレハ十五日「アラワツツ」氏注射器ヲ刺シ
 一箇ヲ吸出セシニ其液無色透明中性ニシテ毫モ固形物
 等ノ痕跡ナシ故ニ前診斷ヲ確定シ穿刺器ヲ以テ該液ヲ
 吸出スルカ或ハ切開ヲ成サンヲ勸告セリ然ルニ十六

日ノ朝之レヲ檢スレハ囊腫ハ全ク消散シテ下腹部ニハ
輕微ノ抗抵ヲモ觸レサルニ至リ爾后今日ニ至ル迄一ケ
月ニ及ヘル再ヒ膨大スルノ狀ナシ

何如ナレハ小兒頭大ノ囊腫斯ク一夜ニシテ消散セシカ
先天性囊腫ハ穿刺後吸收サル、コアリトノ説アレハ斯
ノ如ク迅速ニ吸收シ得ヘキ者ニヤ一日之レヲ醫學士木
村孝藏氏ニ語ルニ氏モ又同様ノ實驗アリト云ヘリ曰ク

三十歳計リノ陰囊水腫患者及二十二歳ノ精液腫の
Matocelle ニ於テ試験的穿刺術ヲ行ヒ未タ本手術ニ罹ラ
サル前ニ囊腫消散セリト而シテ甲患者ハ一年ヲ經テ再ヒ
陰囊腫水腫ヲ發シ來院治療ヲ求メタリトテ予ニ之レヲ
示メサレタルコトニ週間前ナリキ

「ウラクス」囊腫 [Truncogyste] ハ稍ヤ稀有ノ疾病ニシテ而
シテ又稀有ノ轉歸ヲ取リシ者ナレハ記シテ以テ會員諸彦
ノ參考ニ供ス

◎心辨膜病 Herzklappenfehler 一斑

會員 岸 千 尋

心辨膜病トハ臨床上徵知スヘキ辨膜ノ機能障害ヲ云フ
モノニシテ辨ノ閉鎖不全或ハ孔ノ狹窄アリテ來リ又屢
此ニ變化ハ合併シテ來ルモノタリ而シテ此等ノ變化ハ
殆ント毎ニ心内膜炎ヨリ來ルヲ以テ心辨膜病ハ慢性心
内膜炎ト同症ト見做スヘキモノナルモ心辨膜病ト稱ス
ルモノハ内膜ノ炎症既ニ去リテ慢性ニ經過スルモノナ
云フナリ如斯心辨膜病ハ毎ニ心内膜炎ヨリ來ルモノナ
レハ又破格トシテ他ノ原因ヨリ來ルコトナキニ非ス

而シテ心内膜炎ノ最モ主要ナル原因タルモノハ急性關
節僂麻質斯ナリトスストリユンベル氏等ノ經驗ニ由レ
ハ百六十三人ノ慢性辨膜病中ハ十三人ハ確然既往ニ於
テ關節僂麻質斯ヲ認メ他ノ七十七人ハ其原因確定セス
而シテ此關節僂麻質斯ヨリ來ル内膜炎ハ主トシテ疣狀